

JOMF 派遣医師便り (2015. 5)

◆マニラ◆

台風 Yolanda から 1 年半後の被災地を訪ねて

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

2015 年 4 月 26 日、台風 Yolanda (2013 年 11 月) の被災地 DaanBantayan を再度訪れて来ました。DaanBantayan はセブ島最北端に位置し、レイテ島のタクロバン、オルモックと同様に大きな被害を受けた地域です。被災直後に訪れた時は被災者が飢餓線上にあった状況を目にしました。1 年後の昨年 11 月に訪れた時よりも今回は更に復興してきていることを感じる事ができました。

4 月 26 日早朝、セブ市から妻と二人で DaanBantayan に向かいました。途中で飲料水や食料を買い求め、まず District Hospital に行き現地の現在の医療事情をお聞きしました。被災直後に訪れた時は病院内に聴診器と血圧計しかなく、薬 1 錠、注射針 1 本さえも調達が困難な状況でした。しかし「今は電気も水も調達できている、通常診療は行えている」とのことでした。スタッフたちから「被災直後から日本の援助を受けました。ありがとうございます」と感謝の言葉もいただきました。しかしながら病院には現在も心電図やレントゲン機器は無く、さらなる設備の充実が望まれることを感じました。

地元の人から、「友人が被災し家も仕事もなくなっていました。彼の子ども達の健康も心配なので診てほしい」と頼まれました。病院から 10 分ほど車で走ったところの小さな集落に着きました。私たちが車から降りると 30 人くらいの子どもと親たちが集まってきました。はじめは私が持参した聴診器を見て不安そうな様子でしたが、一列に並んで聴診の順番を待ってくれました。みな健康そうで、目が生き生きしていましたのでホッとしました。その友人の方は 40 才くらいですが子どもが 8 人いて、6 畳くらいの一間の家に家族で住んでいます。飲料水は周囲の 4 家族が地下水をパイプで引いて共同で使用し、トイレはその家屋に無いため周囲の原っぱで済ませていました。

集まりの中に一人の女性がいました。地元小学校の先生をしているとのこと。当初は怪訝そうに我々に距離を置いて見ている様子でしたが、徐々に被災した時の状況を涙ぐみながら妻に話し始めました。家の中も案内してくれました。被災直後には強風で屋根は吹き飛ばされ家の柱 4 本しか残っておらず、かろうじて残った家具も水浸し、2 か月の間は電気がなく飲料水の調達も困難だったそうです。避難中の生徒を心配して何度も学校へ様子を見に行ったそうです。今でも大雨や風が吹くと当時のことが思い浮かびとても不安になることなどを話してくれました。巨大台風は家屋を物理的に破壊しただけでなく、人々の心に今も大きな傷跡を残しています。

DaanBantayan の病院へ行く道すがら、道路沿いに BOMBIL という名の花木が新しく植えられ、赤い花や白い花がさわやかな風に揺れていて心を和ませてくれました。
皆さんお体を大切にしてください。

☆ お知らせ ☆

第 28 回 Basic Life Support seminar (心肺蘇生セミナー) を開催します。

内容：心肺蘇生訓練、AED 使用方法について学びます。

日時：2015 年 5 月 30 日(土) 13 時 30 分～16 時 00 分

場所：日本人会診療所待合エリアにて。

原則 8 名まで、予約制とさせていただきます。

動きやすい服装でいらしてください。

参加費は無料です。

修了者には「受講証明証」をお渡しします。

横山 章 医師 (日本大使館医務官) と共に行います。

予約申し込みは (02) 818-0880 または 直接日本人会診療所受付まで。菊地宏久